



句集 誰の眠りでもなく

Mitsusue Noriko 光末紀子



海辺の街の気配、光と闇、他者と自己——。
神戸大学名誉教授で、ドイツ近現代詩・ジェンダー論を専門とする著者が、
長年の思索を背景に紡いだ待望の第一句集。
リルケの墓碑銘に由来する題名のもと、
日常の景に潜む深層を静かに照らし出す。全392句収録。

本句集には、虚と実を往還し、
その境界を問い続ける世界がある。

—— 花谷 清 (「藍」主宰)

—— 収録作品より ——

梅の香の満ち来る過去の中に母
降ろされし亡骸になお遠雪崩
薔薇の渦孤独は原寸大がいい
あじさいの青の音調ベイエリア
どくだみの白に拭えぬ暗さあり
昼寝覚みんなどこかへ行つたきり
鬼やんま静止画像のごとく来る
LGBTQ 紅葉燦たり
ふくろうの雛も仮面をつけており
打ち寄せて帰らぬ波や阪神忌

序句=花谷 清 (「藍」主宰)
装丁=高林昭太 装画=石井いつ子
四六判上製/230頁/定価2750円(10%税込)

著者*光末紀子 (みつすえ のりこ)

1940年 大連生まれ。
1996年 「神戸大学俳文学研究会」入会
2014年 「藍」俳句会入会、のち「藍」同人
2021年 「藍賞」受賞
現在 神戸大学名誉教授
専門分野: ドイツ近現代詩、ヨーロッパ文化論、ジェンダー論

ご注文はJRCへ FAX: 03-3294-2177

●JRC より全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期にお受けします。(了解者 JRC 宮尾)

番線印	注文数	句集 誰の眠りでもなく 光末紀子 著 冊
	注文日	
ご担当: _____ 様		